

ニジェール支所便り

12月号

【編集長】松本支所長 【編集担当】保久企画調査員

Tel: (227) 2073 5569 Fax: (227) 2073 2985 E-mail: ni_oso_rep@jica.go.jp

国別生活情報を更新

ニジェール国別生活情報を更新しました。アドレスは次の通りです。2014年9月時点の最新の情報を掲載していますので、是非ご参考にしてください。(保久企画調査員)

<http://www.jica.go.jp/regions/seikatsu/ku57pq000005g0zr-att/Niger-p.pdf>

2015年の当支所の休日

当支所の2015年の休日を設定しました。ご参考にしてください。(保久企画調査員)

月日	曜日	事由
1月1日	木	元旦
1月2日	金	年始休暇
1月3日	土	モハメッド聖誕祭
2月11日	水	建国記念日
3月21日	土	春分の日
4月6日	月	イースターの振替休日
4月24日	金	和平調印記念日
5月1日	金	メーデー
7月14日	金	ラマダン27日目
7月17日	金	ラマダン明け祭日
8月3日	月	独立記念日
9月24日	火	犠牲祭
9月25日	金	犠牲祭の翌日
10月16日	金	イスラム新年
12月18日	金	共和国宣言記念日
12月23日	水	天皇誕生日

12月24日	木	モハメッド聖誕祭
12月25日	金	クリスマス休暇
12月29日	火	年末休暇
12月30日	水	年末休暇
12月31日	木	年末休暇

プロジェクト・専門家等の活動の進捗状況紹介

■■■サヘル地域における貯水池の有効活用と自律的コミュニティ開発プロジェクト(VRACS)■■■

<http://www.jica.go.jp/project/niger/001/index.html>

1. 終了時評価とみんなの学校専門家による現場の視察

VRACS プロジェクトの終了時評価は、10月28日に行われた終了時評価団の JICA ニジェール支所への報告を終え、11月6日には、TV 会議にて帰国報告会が開催されました。ニアメでの調査は、関係者の聞き取り、アンケート調査の分析などが主に行われました。10月26日には、日本人が訪問可能なニアメサイトの視察がモデルサイトの一つである Yantala Corniche サイトで行われました。本視察には、終了時評価団と JICA ニジェール支所の方々に加え、みんなの学校の原人間開発部アドバイザーと影山専門家にも参加して頂きました。視察を通じ、両名と VRACS の専門家は、FFS のセッションの実施方法、今までの経緯などについて、活発な議論を交わすことが出来ました。「みんなの学校プロジェクト」と VRACS プロジェクトの事務所は、数十メートルの距離にあるのですが、今まで、現場の視察を通じた意見交換をさせて頂く機会はなかなかありませんでした。VRACS で設置しているニアメのサイトは、「モデルサイト」ですので、今後は、より積極的に関係者の訪問の機会をもうけ、VRACS の FFS の宣伝基地にできればと思います。今回視察頂いたみんなの学校プロジェクトの原アドバイザー、影山専門家より、視察訪問記を頂きましたので、以下に記します。

【みんなの学校 VRACS サイト訪問記】

「下手したら小学校の契約教員より字が上手い…。」

VRACS の皆様のご厚意により、10月26日、終了時評価団の現地視察に同行する形で、初めて VRACS の活動「ファーマーフィールドスクール (FFS)」を見学させて頂きました。『朗らかな日曜日の朝、野菜畑が連なるニジェール川沿いの一角にある木陰に御座を敷き、スクール参加の農民たちが和気藹藹と集う勉強会』—。そんな勝手な印象風景を描きながら訪れたサイトで見えたものは—、能力の高い参加者、議事進行の淀みなさ、そして完璧なオーガナイズ。

“遅刻厳禁”、“発言は平等分配”、“スケジュールに基づく議事進行・管理と時間厳守”、そして、“全員フランス語での淀まない話し合い”(もちろん我々お客向けだとしても)。ファシリテーター(普及員)の力を借りずとも、参加者自らの手だけで素晴らしく潤滑に、予定通りの議事が進行し、課題を次々とこなしていく—。その姿は、お祈り時刻以外は「目安」でしかない会合の時間割り。時に組合の労働争議かと思紛う



視察時の様子、訪問者の自己紹介

カオス化した集会や研修—。そうかと思えば、睡眠薬入りとしか思えない報告を永遠と読み上げる行政官会議—。現地語が飛び交い、可笑しくも「話が進まん！」と運営者泣かせの会合に慣れた目には、まさに驚きの会合でした。

発表資料作成に至っては、赤、緑、黒とマジックの色を使い分け、グループ名の書き位置から、太陽と地面の距離、さらには葉っぱの書き振りにまで細かいこだわりを見せ、巻尺で丁寧に測った細かい数字をノートから書き写し、携帯を使わず暗算で合計を算出—。“見せる技術”を盛り込んだ作成資料と発表に、「今の小学校の契約教員にこれ程のことが出来るかどうか……」。

ニアメという立地を考慮したとしても、私の勝手なニジェル“農民”像を覆す姿に、「一体全体この人たちは何者か？」—と好奇心を抑えられずに聞いて回ると、学校が“選ばれし者”のものであった時代の中学3年、4年卒(今の中学3年、4年とはまずもってレベルが違う)、さらにはバカロレア(後期中等終了大学入学資格)保持者と、今の新人契約教員が負けるのも納得の経歴。

ならば、はたして非識字者が多いと思われる農村部ではどうなのだろう—？との疑問。FFS の農村部での実践・モデルの適用に興味を掻き立てられます。「みんなの学校(EPT)プロジェクト」では、伝達内容を可能な限りシンプルにし、寸劇やシミュレーションという“口承・体感・実践”による知識・情報伝達手法を駆使して非識字者へアプローチを可能にしてきました。しかし、この FFS にて求められるような“細かい複雑な情報の蓄積が『ミソ』である場合、どうするか—”。メジャーを使って作物を測る。細かい数字を含む観察記録をノートに書き込む。比較的細かい情報を基に議論し、知識と技術を高めていく。その学びのサイクルに「識字」が大きな壁となるのは想像に難くない。では、非識字者に対しどう学びのサイクルを作っているのか—？その疑問から転じて、児童の学習能力向上、教育の質の改善といったより“識字”が影響する現在の住民ニーズに対し、大半が非識字者である住民がどのように関与し得るか、という今の EPT が取り組んでいる課題までが想起されます。

そして、「短期間に目に見える成果を継続的に出し続けることで、住民のモチベーションを維持し、活動を停滞させない」という住民活動の機能化戦略を用いてきた EPT にとっては、児童への学習効果という“概して”一朝一夕にはいかない課題の前で、住民のモチベーションをどう維持し、活動を継続させていくかという点もまた、現在取り組むべき一つのチャレンジなのですが、FFS の『学び』が利益としてリターンを得るまでの距離の長さを考えると、その間のモチベーションの維持はどうしているのか—。何がそれを支えているのか—。FFS の見学をしながら、EPT(みんなの学校)の課題がリンクし、様々なことに思いを馳せる日曜となりました。

そんな中でひとつ大いに気になったのが参加者の子どもたち。家庭学習や自己学習習慣が必ずしも浸透していないニジェルにおいて、FFS を通して生涯教育ともいえるべき「学び」への意識とその習慣を身に着けた参加者、—つまり“子どもの保護者”。それがどのように、彼らの子どもたちの学習へ影響を及ぼすか—？「大人が変われば、子どもも変わる—(はず)」。ぜひ参加者の家庭訪問をしてみたいものだと思います。サイトを後にしました。

お忙しい終了時評価調査の中、おまけでくっ付いていった私たちにも快く付き添って、丁寧に説明くださった VRACS 関係者の皆様、FFS 参加者の皆さま、ありがとうございました。今回の訪問では、みんなの学校プロジェクトに活かそうな学びをたくさん頂きました。分野を超えてのこのような交流がそれぞれの活動の発展に繋がることを願い、今度は是非 VRACS の皆様に EPT サイトを見て頂き、アドバイスを頂ければと思っています。(みんなの学校プロジェクト 原アドバイザー、影山専門家)

終了時評価団による提言には、プロジェクト期間の10ヶ月延長が記されました。我々のニジュールとの付き合いはもう少し伸びそうです。

2. FFSによる農業普及

FFSによる農業普及は第2期(2013年11月から2014年11月まで)の卒業、第3期(2014年11月よりの)立ち上げの準備でC/P、プロジェクトスタッフ、日本人専門家は慌ただしい日々を過ごしています。ニアモデルサイトでは、卒業を前に評価セッションが10月末から11月にかけて実施されています。その中で、FFSにおいて学んだことをテストするセッションがあります。そのセッションでは、ファシリテーターが作成した3択の質問に参加農民一人一人が、自分の票をいれて回答し、全員が回答し終わったら、皆の前で正解とその説明をファシリテーターが行います。

ニアモデルサイトの一つである、Yantala Corniche サイトでは、農民ファシリテーターがこのテストを実施しました。テスト前の準備として、農民ファシリテーターは、1年間の活動を踏まえ、乾季野菜作(レタス栽培)に関する質問を9問、雨季野菜作(ピーマン)に関する質問を9問、合計18問の質問を考え、画用紙に記載、回答(投票)用のポケットを作成する作業を夜遅くまでかけて行いました。

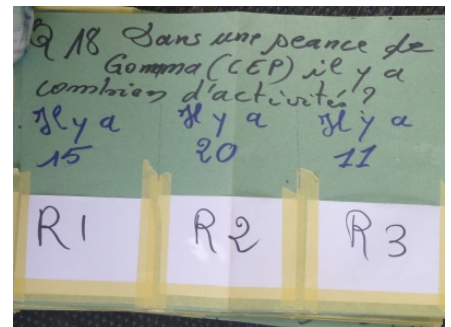
当日は、質問をFFSのセッションを実施している場所に貼り付け、参加者がそれぞれ投票したあと、正答をファシリテーターが説明しました。本テストは、参加者の理解度を計る意味もありますが、FFSで学んだことを確認(復習)する意味もあります。正解の説明時には、設問ごとに正解が発表されると、ガッツポーズをする参加者もいました。(長井専門家)



テストを準備する農民ファシリテーター



回答の様子



設問

■■みんなの学校:住民参加を通じた教育開発プロジェクト(EPT III)■■■■

今月のみんなの学校プロジェクトでは、住民参加による質の改善活動である『学校運営委員会(CGDES)への補助金モデル』と『質のミニマムパッケージ』の“融合パイロット活動”の開始へ向け、モジュールの開発、ならびに関係者への能力強化研修準備に取り組みました。さらに、先月実施したプロジェクトの合同調整委員会での合意をもって、『機能する中学校 COGES(学校運営委員会)モデル開発』パイロット活動の再開へ向けた、基礎調査およびモジュール開発の準備に、中等教育省 COGES 中央推進室と共に取り組みました。

『CGDES 補助金モデル』と『質のミニマムパッケージ』の“融合”パイロット活動は、前学年度までプロジェクトで取り組んできた、“住民参加による質の改善(児童の学力向上)”という目的の一つにする二つの活動を組

み合わせ、そのシナジー効果によるさらなる成果(児童の学力向上)の拡大を狙ったものです。また、質のミニマムパッケージの算数ドリルのコストに鑑みると、将来的に住民動員だけで賄うのは難しいことから、今後、ニジェール国における学校運営委員会への補助金供与の取り組み拡大を背景として、補助金の効果的な使い方の一つのモデルとして、JICA 開発の「算数ドリル」を提案していく意図もあります。

今後 12 月末にかけては、補助金モデルと質のミニマムパッケージの“融合”パイロット活動にかかる関係者(初等教育省 CGDES 調整部、CGDES 監督官、初等 CGDES 等)への能力強化研修、ならびに対象 CGDES への補助金供与を経て、現場での算数ドリル活動実施にまで進めていきます。そして、『機能する中学校 COGES モデル』においては、モジュール開発後、関係者(COGES 中央推進室、COGES 監督官)への能力強化から、対象中学校に対する“機能する中学校 COGES”設立研修へと取り組み予定です。